

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう (ヒムロッド・シートレスを除く 2 倍体 米国系品種) [無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第 1 回目 ジベレリン 100ppm 第 2 回目 ジベレリン 75～ 100ppm	果房散布 の場合は 30～100 L/10a	満開予定日 約 14 日前 (第 1 回目)及び 満開約 10 日後 (第 2 回目)	2 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内	第 1 回目：花房浸漬 第 2 回目：果房浸漬 又は果房散布	2 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内
ぶどう (ヒムロッド・シートレス)	果粒肥大促進	ジベレリン 100ppm	—	着粒後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	果房浸漬	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内
ぶどう (テラウエア) [無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第 1 回目 ジベレリン 100ppm 第 2 回目 ジベレリン 75～ 100ppm	果房散布 の場合は 30～100 L/10a	満開予定日 約 14 日前 (第 1 回目) 及び 満開約 10 日後 (第 2 回目)	2 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内	第 1 回目：花房浸漬 第 2 回目：果房浸漬 又は果房散布	2 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内
				満開予定日 18～14 日前 (第 1 回目) 及び 満開約 10 日後 (第 2 回目)		第 1 回目：花房浸漬 (ホルクロルフェニエロン 1～5 ppm 液に加用) 第 2 回目：果房浸漬 又は果房散布	
ぶどう (キャンベルアーリーを除く 2 倍体 米国系品種) [有核栽培]	果粒肥大促進	ジベレリン 50ppm	—	満開 10～15 日後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	果房浸漬	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内
ぶどう (キャンベルアーリー) [有核栽培]	果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	30～100 L/10a	満開予定日 約 20～30 日前 (展葉 3～5 枚時)	1 回	花房散布	2 回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 3 回以内
ぶどう (2 倍体 欧州系品種) [無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第 1 回目 ジベレリン 25ppm 第 2 回目 ジベレリン 25ppm	—	満開時～満開 3 日後(第 1 回目)及び 満開 10～15 日後 (第 2 回目)	2 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内	第 1 回目：花房浸漬 第 2 回目：果房浸漬	3 回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 5 回以内
		ジベレリン 25ppm		満開 3～5 日後 (落花期)	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	花房浸漬 (ホルクロルフェニエロン 10ppm 液に加用)	
	果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	30～100 L/10a	展葉 3～5 枚時	1 回	花房散布	
ぶどう (ヒロハナブルグを除く 2 倍体 欧州系品種) [有核栽培]	果粒肥大促進	ジベレリン 25ppm	—	満開 10～20 日後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	果房浸漬	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内
ぶどう (ヒロハナブルグ) [有核栽培]		ジベレリン 50～ 100ppm	果房散布 の場合は 70～80 L/10a	満開 10～15 日後		果房浸漬又は 果房散布	
ぶどう (キングテラ、 ハースードレス、 BK シートレスを除く 3 倍体品種)	着粒安定 果粒肥大促進	第 1 回目 ジベレリン 25～50ppm 第 2 回目 ジベレリン 25～50ppm	—	満開時～満開 3 日後(第 1 回目)及び 満開 10～15 日後 (第 2 回目)	2 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内	第 1 回目：花房浸漬 第 2 回目：果房浸漬	3 回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 5 回以内
	果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	30～100 L/10a	展葉 3～5 枚時	1 回	花房散布	

作物名	使用目的	使用濃度	使用流量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう (BK シードレス)		第 1 回目 ジベレリン 25～50ppm 第 2 回目 ジベレリン 25～50ppm	—	満開時～満開 3 日後 (第 1 回目)及び 満開 10～15 日後 (第 2 回目)	2 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内	第 1 回目：花房浸漬 第 2 回目：果房浸漬	2 回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内
		ジベレリン 100ppm		満開 3～6 日後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	花房又は果房浸漬	
ぶどう (キングデラ)	着粒安定 果粒肥大促進	第 1 回目 ジベレリン 50ppm 第 2 回目 ジベレリン 50～100ppm	果房散布の場合は 50～100 L/10a	満開時～満開 3 日後 (第 1 回目)及び 満開 10～15 日後 (第 2 回目)	2 回	第 1 回目：花房浸漬 第 2 回目：果房浸漬 又は果房散布	2 回
ぶどう (ハニシードレス)		ジベレリン 100ppm	—	満開 3～6 日後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	花房又は果房浸漬	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内
ぶどう (サニールシュを除く巨峰系 4 倍体品種) [無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第 1 回目 ジベレリン 12.5～25ppm 第 2 回目 ジベレリン 25ppm	—	満開時～満開 3 日後 (第 1 回目)及び 満開 10～15 日後 (第 2 回目)	2 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内	第 1 回目：花房浸漬 第 2 回目：果房浸漬	
		ジベレリン 25ppm		満開 3～5 日後 (落花期)	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	花房浸漬 (ホルクロルフェニュロン 10ppm 液に加用)	
	無種子化	ジベレリン 12.5～25ppm	30～100 L/10a	満開時～満開 3 日後		花房浸漬 (満開 10～15 日後にホルクロルフェニュロンによる果粒肥大促進処理を行うこと。)	
	果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm		展葉 3～5 枚時	1 回	花房散布	
ぶどう (サニールシュ) [無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第 1 回目 ジベレリン 12.5～25ppm 第 2 回目 ジベレリン 25ppm	—	満開時～満開 3 日後 (第 1 回目)及び 満開 10～15 日後 (第 2 回目)	2 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内	第 1 回目：花房浸漬 第 2 回目：果房浸漬	3 回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 5 回以内
		ジベレリン 25ppm		満開 3～5 日後 (落花期)	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	花房浸漬 (ホルクロルフェニュロン 10ppm 液に加用)	
	無種子化	ジベレリン 12.5～25ppm	30～100 L/10a	満開時～満開 3 日後		花房浸漬 (満開 10～15 日後にホルクロルフェニュロンによる果粒肥大促進処理を行うこと。)	
	果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm		展葉 3～5 枚時	1 回	花房散布	
	着粒密度低減 果粒肥大促進	第 1 回目 ジベレリン 25ppm 第 2 回目 ジベレリン 25ppm	—	満開予定日 14～20 日前(第 1 回目)及び 満開 10～15 日後 (第 2 回目)	2 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内	第 1 回目：花房浸漬 (ホルクロルフェニュロン 3ppm 液に加用) 第 2 回目：果房浸漬	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう(巨峰) [有核栽培] ぶどう (ルビー・ロマン) [有核栽培] ぶどう (ハービー・ナス) [有核栽培]	果粒肥大促進	ジベレリン 25ppm	—	満開 10～20 日後	1 回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内	果房浸漬	1 回 但し降雨等により再処理を行う場合は合計 2 回以内
ぶどう(高尾) ぶどう (ふくしずく)		ジベレリン 50～100ppm		満開時～満開 7 日後		花房又は果房浸漬	
ぶどう (あづましずく)		第 1 回目 ジベレリン 25～50ppm 第 2 回目 ジベレリン 50ppm		満開時 (第 1 回目) 満開 4～13 日後 (第 2 回目)	2 回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内	果房浸漬	2 回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計 4 回以内
かんきつ(苗木、ただし、温州みかんを除く)	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	12～3 月	1 回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤 60～80 倍液に加用)	1 回
		ジベレリン 25～50ppm	50～250 L/10a			立木全面散布又は枝別散布	
かんきつ (不知火、ぼんかん、かぼす、はるみ、ワシントンネーブル、日向夏、すだち、平兵衛酢、長門ユズキチ(無核)、温州みかん、きんかん、愛媛果試第 28 号、愛媛果試第 48 号、清見、カラを除く)		ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3 月		立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤 60～80 倍液に加用)	
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～ 収穫約 1 ヶ月後		立木全面散布又は枝別散布(プロヒト・ロジヤスモン 2000 倍液に加用)	
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布又は枝別散布	
			ジベレリン 10ppm	50～100 L/10a		開花始め～満開 10 日後	
不知火 はるみ 愛媛果試第 28 号	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3 月		3 回以内	
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～ 収穫約 1 ヶ月後	立木全面散布又は枝別散布(プロヒト・ロジヤスモン 2000 倍液に加用)		
		ジベレリン 25～50ppm			立木全面散布又は枝別散布		
	落果防止	ジベレリン 10ppm	50～100 L/10a	開花始め～満開 10 日後	散布 散布(プロヒト・ロジヤスモン 2000 倍液に加用)		
		ジベレリン 10ppm			散布(プロヒト・ロジヤスモン 2000 倍液に加用)		
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5～1ppm	50～500 L/10a	着色終期 但し、収穫 7 日前まで	果実散布		

2024 年 7 月 24 日現在

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ジベレリンを 含む農薬の 総使用回数
ぼんかん	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3 月	1 回	立木全面散布 又は枝別散布 (マシン油乳剤 60～80 倍液に加用)	1 回
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～ 収穫約 1 ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布 (プロヒドロキシモン 2000 倍液に加用)	
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 10ppm	50～100 L/10a	開花始め～ 満開 10 日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロヒドロキシモン 2000 倍液に加用)	
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5ppm	50～500 L/10a	着色始期～ 4 分着色期 但し、収穫 21 日前まで		果実散布	
長門ユズキ (無核)	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～ 収穫約 1 ヶ月後	1 回	立木全面散布 又は枝別散布 (プロヒドロキシモン 2000 倍液に加用)	1 回
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 10ppm	50～100 L/10a	開花始め～ 満開 10 日後		散布	
		ジベレリン 50ppm				散布(プロヒドロキシモン 2000 倍液に加用)	
	着果安定	ジベレリン 50ppm		開花期～ 開花終期		花又は 果実散布	
	果皮の 緑色維持	ジベレリン 10～25ppm	50～400 L/10a	収穫予定 14～30 日前		果実散布	
すだち	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～ 収穫約 1 ヶ月後	1 回	立木全面散布 又は枝別散布 (プロヒドロキシモン 2000 倍液に加用)	1 回
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 10ppm	50～100 L/10a	開花始め～ 満開 10 日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロヒドロキシモン 2000 倍液に加用)	
	果皮の 緑色維持	ジベレリン 5～25ppm	50～400 L/10a	収穫予定 7～30 日前		果実散布	
平兵衛酢 かぼす	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～ 収穫約 1 ヶ月後	1 回	立木全面散布 又は枝別散布 (プロヒドロキシモン 2000 倍液に加用)	1 回
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 10ppm	50～100 L/10a	開花始め～ 満開 10 日後		散布	
		ジベレリン 10ppm				散布(プロヒドロキシモン 2000 倍液に加用)	
	果皮の 緑色維持	ジベレリン 10～25ppm	50～400 L/10a	収穫予定 14～30 日前		果実散布	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ジベレリンを 含む農薬の 総使用回数	
ワシントンネーブル	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3 月	1 回	立木全面散布 又は枝別散布 (マシン油乳剤 60～80 倍液に加用)	1 回	
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～ 収穫約 1 ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布 (プロヒト・ロジヤモン 2000 倍液に加用)		
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布 又は枝別散布		
	落果防止	ジベレリン 500ppm	30～40 L/10a	満開 10～20 日後 の幼果期		幼果に散布		
日向夏	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3 月		立木全面散布 又は枝別散布 (マシン油乳剤 60～80 倍液に加用)		
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～ 収穫約 1 ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布 (プロヒト・ロジヤモン 2000 倍液に加用)		
		ジベレリン 25～50ppm				立木全面散布 又は枝別散布		
	無種子化 落果防止	ジベレリン 300～ 500ppm	30～40 L/10a	満開 7～10 日後		果実散布		
愛媛果試 第 48 号	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3 月		1 回	立木全面散布又は枝別 散布(マシン油乳剤 60～ 80 倍液に加用)	3 回以内
		ジベレリン	50～250 L/10a	収穫直後～ 収穫約 1 ヶ月後			立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止	25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～ 満開 10 日後			散布	
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5～1ppm	50～500 L/10a	着色終期 但し、収穫 7 日前 まで			果実散布	
清見	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3 月			立木全面散布 又は枝別散布 (マシン油乳剤 60～80 倍液に加用)	
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～ 収穫約 1 ヶ月後			立木全面散布 又は枝別散布 (プロヒト・ロジヤモン 2000 倍液に加用)	
		ジベレリン 25～50ppm					立木全面散布 又は枝別散布	
	落果防止	ジベレリン 10ppm	50～100 L/10a	開花始め～ 満開 10 日後			散布	
		散布(プロヒト・ロジヤモン 1000～2000 倍液に加 用)						
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5～1ppm	50～500 L/10a	着色終期 但し、収穫 7 日前 まで			果実散布	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数	
カラ	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3 月	1 回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤 60～80 倍液に加用)	1 回	
		ジベレリン	50～250 L/10a	収穫直後～ 収穫約 1 ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布		
	落果防止	25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～ 満開 10 日後		散布		
	水腐れ軽減	ジベレリン 0.5～1ppm	50～500 L/10a	着色終期 但し、収穫 7 日前 まで		果実散布		
きんかん	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	収穫後～3 月		立木全面散布 又は枝別散布 (マシン油乳剤 60～80 倍液に加用)		
		ジベレリン 10ppm	50～250 L/10a	収穫直後～ 収穫約 1 ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布 (プロヒト®ロジヤモン 2000 倍液に加用)		
		ジベレリン				立木全面散布 又は枝別散布		
	落果防止	25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～ 満開 10 日後		散布		
		ジベレリン 10ppm				散布(プロヒト®ロジヤモン 2000 倍液に加用)		
	着果安定	ジベレリン 300ppm	30～60 L/10a	一番花開花期		花に散布		
温州みかん (苗木)	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	50～250 L/10a	11～1 月		立木全面散布 又は枝別散布		
		ジベレリン 10ppm				立木全面散布 又は枝別散布 (プロヒト®ロジヤモン 1000～2000 倍液に加用)		
		ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a			立木全面散布 又は枝別散布 (マシン油乳剤 60～80 倍液 又は展着剤に加用)		
温州みかん	花芽抑制による樹勢の維持	ジベレリン 25～50ppm	50～250 L/10a	収穫直後～ 収穫約 1 ヶ月後		立木全面散布 又は枝別散布		3 回以内
		ジベレリン 10ppm				立木全面散布 又は枝別散布 (プロヒト®ロジヤモン 1000～2000 倍液に加用)		
		ジベレリン 2.5ppm	200～700 L/10a	11～1 月 但し、収穫後		立木全面散布 又は枝別散布 (マシン油乳剤 60～80 倍液 又は展着剤に加用)		
	落果防止	ジベレリン 25～50ppm	50～100 L/10a	開花始め～ 満開 10 日後		散布		
		ジベレリン 10ppm				散布(プロヒト®ロジヤモン 1000～2000 倍液に加用)		
	浮皮軽減	ジベレリン 1～5ppm	100～400 L/10a	収穫予定日の 3 ヶ月 前 但し、収穫 45 日 前まで		果実散布 (プロヒト®ロジヤモン 1000～2000 倍液に加用)		

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ジベレリンを 含む農薬の 総使用回数
びわ (3 倍体)	着果安定 果実肥大促進	第 1 回目 ジベレリン 200ppm 第 2 回目 ジベレリン 200ppm	—	満開予定日約 7 日前 ～満開時(第 1 回目) 及び第 1 回目処理後 35～60 日(第 2 回目)	2 回	ホルクロルフェニロン 20ppm 液に加用 第 1 回目：花房浸漬 第 2 回目：果房浸漬	2 回
すもも(貴陽)	着果安定	ジベレリン 100～ 200ppm	20～50 L/10a	満開 20～30 日後 (第 1 回目) 満開 50～60 日後 (第 2 回目)		果実散布	
かき	落果防止	ジベレリン 12.5～ 200ppm	30～100 L/10a	満開 10 日後	1 回	幼果及び へたに散布	1 回
アセロラ	着粒安定	ジベレリン 25ppm	100～400 L/10a	開花期	1 花当り 1 回	花に散布	1 花そう当り 3 回以内
野菜類	発芽促進	ジベレリン 50～ 200ppm	—	は種前	1 回	種子浸漬	1 回
みつば (軟化栽培 を除く)	生育促進	ジベレリン 10ppm	50～100 L/10a	本葉 2～3 枚時 (第 1 回目)とその 2 週間後(第 2 回目) 但し、収穫 14 日前ま で	2 回	葉面散布	3 回以内(種子へ の処理は 1 回以 内、は種後は 2 回 以内)
みつば (軟化栽培)		ジベレリン 20～50ppm		根株伏込時	1 回	根株上面に散布	2 回以内 (種子へ の処理は 1 回以 内、根株伏込時 は 1 回以内)
トマト	空どう果防止	ジベレリン 10ppm	1 花房 当り 5mL	開花時	1 花房当り 1 回	花房散布 (トマト落果防止剤と併用)	種子への処理は 1 回、1 花房当り 1 回
なす	着果数増加	ジベレリン 10～50ppm	100～150 L/10a		1 回	葉面散布	2 回以内(種子へ の処理は 1 回以 内、は種後は 1 回以内)

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
さやいんげん (矮性(促成又は半促成栽培))	節間伸長促進	ジベレリン 5ppm	1 株当たり 2mL	本葉 0.5～1.5 枚 展開時	2 回以内	茎頂部散布	3 回以内(種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内)
しそ (花穂)	穂の伸長促進 花径の伸長促進		50L/10a	出穂期 但し、収穫 5 日前まで		茎葉散布	
いちご (促成栽培)	着果数増加 熟期促進	ジベレリン 10ppm	1 株当たり 5mL	休眠に入る直前 (冬場の低温期)	1 株当たり 6 回以内	茎葉全面散布	1 株当たり 10 回以内
いちご	果柄の伸長促進			頂花の出蕾直後～開花直前	1 花房 当たり 1 回	株の中心部に散布	
いちご (親株床)	ランナー発生促進	ジベレリン 50ppm	1 株当たり 10mL	採苗時ランナー発生直前～発生初期	1 株当たり 1 回	茎葉散布	1 株当たり 1 回
メロン	着果促進	ジベレリン 200ppm	1 花当たり 2～5mL	開花前日～翌日	1 花当たり 1 回	散布(4-CPA 剤 50 倍液に加用)	種子への処理は 1 回、 1 花当たり 1 回
うど (春うど)	休眠打破による 生育促進	ジベレリン 50ppm	1 株当たり 20～25mL	伏込時	1 回	根株散布	1 回
		ジベレリン 50～ 100ppm	—			根株浸漬	
たらのき (促成栽培)	萌芽促進	ジベレリン 50ppm	100～ 200mL/ m ²			駒木散布	
ふき	生育促進	ジベレリン 25ppm	50～300 L/10a	葉数 3～4 枚時 (草丈 10～30cm 頃)			
セルリー	生育促進 肥大促進	ジベレリン 50～ 100ppm	20～200 L/10a	収穫予定 7～20 日前		葉面散布	2 回以内(種子への処理は 1 回以内、は種後は 1 回以内)
畑わさび	花茎の抽出時期 促進及び 発生量増加	第 1 回目 ジベレリン 100ppm 第 2 回目 ジベレリン 100ppm	1 株当たり 2mL	花芽分化後の 10 月 下旬(第 1 回目)及び 第 1 回目処理後 約 10 日後の 11 月 月上旬(第 2 回目) 但し、収穫 60 日前まで	2 回	株の中心部に散布	3 回以内(種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内)
ばれいしょ	休眠打破による 萌芽促進 及び小粒いも または全粒 種いもの増収	ジベレリン 5～10ppm	—	植付前	1 回	30 秒間種いも浸漬	1 回
			250～300 mL/種いも 10kg			種いも散布	
花き類 (りんどうを除く)	発芽促進	ジベレリン 50～ 200ppm	—	は種前		種子浸漬	
りんどう		ジベレリン 50～ 200ppm		は種前		種子浸漬	2 回以内(種子への処理は 1 回以内、は種後は 1 回以内)
	ジベレリン 100ppm	50～150 L/10a	定植直前または 定植 1～5 週間後	茎葉散布			
		1 株当たり 5～10mL	収穫後	切株散布			
	カー (湿地栽培を除く)	生育促進	ジベレリン 50ppm	—		植付時	球根浸漬
50～150 L/10a	花茎伸長期			茎葉散布		1 回	
トルコギキョウ	ジベレリン 50～ 100ppm		30～40 L/10a				生育期間中に ゼット化した時
ソリダゴ	ジベレリン 25ppm		1 株当たり 1mL				活着直後又は萌芽期
アイリス	ジベレリン 50～ 100ppm		—	植付時		球根浸漬	

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ジベレリンを 含む農薬の 総使用回数
シクラメン	開花促進	ジベレリン 1～5ppm	1 株当り	9 月中・下旬	1 回	花蕾を含む芽の 中心部に散布	1 回
プリムラ （マロイデス）		ジベレリン 10～20ppm	2～5mL	11 月上旬頃の 花蕾出現直後		株の中心部に散布	
チューリップ （促成栽培）		ジベレリン 400ppm	1 球当り 1mL	草丈 7～20cm の 時に 7 日間隔	2 回以内	筒状の葉の中心部に滴 下	2 回以内
スパティフィウム		ジベレリン 250～ 500ppm	30～40 L/10a	出荷予定期の 2～3 ヶ月前	1 回	茎葉散布	1 回
みやこわすれ	開花促進 草丈伸長促進	ジベレリン 50～ 100ppm	1 株当り 10～15mL	1 月中旬の 保温開始時から 7～10 日間隔	3 回	葉面散布	3 回以内
きく		ジベレリン 25～ 100ppm	50～100 L/10a	生育期	2 回以内	茎葉散布	2 回以内
しらん		ジベレリン 50ppm	—	植付時	1 回	30 分間株浸漬	1 回
アザレア	開花促進	ジベレリン 250～ 500ppm	30～40 L/10a	開花予定日 約 1 ヶ月前		茎葉散布	
さつき （施設栽培苗）	茎の伸長促進 花芽分化の 抑制	ジベレリン 100～ 200ppm	50～100 L/10a	茎の伸長初期 ～伸長終期 （開花盛期以降） 1～2 週間間隔	3 回	頂芽に十分散布	3 回以内
さくら （切り枝促成 栽培）	休眠打破に よる生育促進	ジベレリン 25～50ppm	50～200 L/10a	休眠期	1 回	切り枝全面散布	1 回
			—			切り枝浸漬	